

音楽研究部会

I 研究テーマ 「私の音楽 みんなで音楽」

～音楽を形づくっている要素を感受し 自ら広げる音楽の世界～

II 研究テーマ設定の理由

今年度中学部会では、昨年と同じテーマで継続研究を行ってきた。一昨年行われた関東音楽研究会山梨大会の研究の流れを受け継ぎ、小学校と中学校の連携を行いながら研究を進めてきた。双方の実践を参観することにより、学習内容や指導方法について理解することができ、さらにそれぞれの実践に生かす利点がある。今年度は小中の系統性を意識した表現領域の中の「創作」分野に焦点を当て、支部としての研究を進めてきた。

「創作」の分野では、自らの思いや意図を形にし、伝え合い、仲間と共有し合う学習活動ができる生徒を目指していきたいと考える。そのためには、一人一人の生徒に楽譜のリテラシーや音楽の技能等の基礎的な力を身につけさせていくための授業の工夫が必要となってくる。教師の指導方法を検証し、そのような授業の展開をすることによって、音楽活動を楽しく感じ、子どもたちの音楽の世界が広がり、さらによりよいものを追求したくなる生徒の育成を目指し、本テーマを設定した。

III 経過と内容

1 研究内容

学習指導要領に基づいて、〔共通事項〕の取り扱いや歌唱の指導法について、双方の実践を見合ったり、講師を招聘して学習会を行ったりした。

- 4 / 10 (木) 研究組織・年間計画について
- 5 / 15 (火) 研究テーマ・研究計画の検討・承認
- 6 / 17 (火) 中学校ブロック；日本音楽講習会 講師；神宮寺淑子先生
- 8 / 7 (木) 合唱練習・指導案検討
- 8 / 20 (水) 合唱練習・指導案検討
- 9 / 4 (木) 研究授業及び研究会「おいしいうたをつくろう」（山城小1年）
- 10 / 2 (木) 研究授業及び研究会「重なる旋律をつくって演奏しよう」（北東中2年）
- 11 / 4 (火) 県教研環流報告・合唱練習
- 1 / 27 (火) 全体部会（反省・来年度に向けて）

2 研究授業指導案（北東中学校の実践）

第2学年音楽科学習指導案（抜粋）

(1) 題材名 重なる旋律をつくって演奏しよう

(2) 題材の目標

- ・ 反復や対照を用いてリズムを工夫したり、旋律の動きを工夫したりしてもとの旋律に重なる

旋律をつくり、2つの旋律を合わせて演奏する。

- ・ テクスチャと曲想とのかかわりを理解して楽曲を鑑賞する。

(3) 題材設定の理由

本題材では、もとの旋律に対照的なリズムや反復、順次進行や跳躍進行を用いて新たな旋律を創作し、もとの旋律と重ね合わせることで、音楽表現の豊かさを感じとらせることをねらいとしている。ペアやグループで活動したり、鍵盤ハーモニカやアルトリコーダーなど一人一人が扱いやすい楽器を用いたりすることで、苦手意識をもつ生徒も進んで活動できると考える。また、題材の始めには既習曲などの歌唱活動を行って旋律が重なることで表現が豊かになることを感じ取らせたり、題材の終わりには鑑賞を行って楽曲の構成を理解して味わったりすることで、創作と表現、鑑賞の3つの活動の関連が図れると考え、この題材を設定した。

(4) 教材について

〈歌唱教材〉「時の旅人」「ユーモレスク」「故郷の人々（スワニー河）」

〈器楽教材〉創作した楽曲〈鑑賞教材〉 「アルルの女」第2組曲より「ファランドール」

(5) 本時の授業

①本時の目標 もとの旋律に重ねる旋律を完成させよう

②展 開

	学習のねらいと学習活動	教師の指導・支援	評価・備考
導入 (五分)	<p>①2つの旋律が重なり合う表現の豊かさを思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ユーモレスク」と「故郷の人々」をパートナーソングとして合わせて歌う。 ・「時の旅人」の重なる部分を合唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの旋律を重ねて歌ったときに感じたことを発表させ、表現が豊かになることを実感させる。 	
展開 (②二五分+③十五分)	<p>②前時につくったリズムをもとに、上段と下段をそれぞれつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダーや鍵盤ハーモニカを使って和音の構成音の中から音を選び、個人で2小節分の仮旋律をつくる。 ・個人でつくった2小節を持ち寄ってつながりを考え、ペアで上段または下段の仮旋律をつくる。 <p>③上段と下段をつなげて1つの楽曲にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合ったり演奏したりしながら、順次進行と跳躍進行による表現の効果を生かして旋律の手直しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの座席に戻し、話し合ったり、演奏したりするよう指示する。 	<p>創①2つの旋律が重なることによる音楽表現の広がりを感じながら、反復や対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>

<p>まとめ (五分)</p>	<p>④本時の学習内容をふり返る。 ・自己評価カードに、この時間で最も大切だと思ったことを記入する。 ⑤次時の学習内容について知る。</p>	<p>・次時はこの時間につくった曲を練習して、互いに発表し合うことを伝える。</p>	
---------------------	--	--	--

○研究協議

- ・創作をするのにスモールステップで短い時間に区切って活動させてもよかった。
- ・創作したリズムが難しかったので、それに音を入れるとさらに難しくなってしまった。もっと、簡単なリズムでの創作でもよかったのではないか。
- ・個人の見取りが良くできている授業で良かった。ワークシートの工夫が必要であった。
- ・ICTの活用は素晴らしいが、説明の内容が遠くから見づらく、提示の仕方の工夫をする必要があった。
- ・今回はアルトリコーダーを使用したがる、どのような楽器を使って創作をさせるのが効果的か。

○指導・助言 押原中教頭 葉袋 貴先生より

- ・できない生徒をどのようにサポートしていくのか、指導方法に工夫が必要である。
- ・リコーダーで構成音をみんなで吹いてみるなど、心地よく感じる体験が生徒には必要であった。和音がきれいに合ったという体験があれば、生徒はもっと短い音にしたいくなる。
- ・授業についてはよく考えているが、教材が適切かよく吟味しなければならない。
- ・教師は、どこまでをこの授業で目指すかという目標をもって指導を行っていく必要がある。

IV 研究の反省と課題

今年度は「創作」分野で研究を行ってきた。中学校の創作に関しては、生徒一人一人の音楽的な力量の差を踏まえながら、生徒の思いや意図を旋律という形にしていくという過程で、指導法においては課題が山積している。基礎的な知識や技能がない生徒にも成就感を味わわせる授業の展開を今後も研究していかなければならない。小中連携については、小学校の授業の参観をさせていただき、創作の導入段階の指導を学ぶことができ、参考になった。さらに、継続して義務教育9年間の流れを理解して実践に生かしていきたい。また、教師の指導力を高めるために三味線の指導法講習会を昨年に引き続き行い、日本の伝統音楽の指導に生かせる講習会となった。

今年度の成果と課題を踏まえて、次年度の研究の方向性を十分に検討し、さらに音楽科としての研究を深めていきたい。